

## パレスチナ持続的農業技術確立のための普及システム強化プロジェクト

調査期間：2008年1月～12月、担当業務：畜産/飼料・草地

### プロジェクトの背景

ヨルダン渓谷は、面積およそ千平方キロ、人口は約89,000人で、パレスチナ自治区西岸地区の東部に位置している。基幹産業は農業で、労働人口のおよそ70%、域内GDPの12%を占め、地域経済の中で重要な役割を果たしている。ヨルダン渓谷の農地はおよそ13,500haで、ジェリコ県には4,000haが展開しそのほぼ100%が灌漑されている。同県で営まれている農業の主たる問題として、農家の技術レベルの低さ、水管理の不徹底、土壌の塩類集積、肥料・農薬の不足や価格の高騰、イスラエルによる移動規制による流通・マーケティングへの影響が挙げられている。これらの問題に対処すべき農業研究、農業普及は連携がなされておらず、また農民のニーズを汲み取る仕組みも無いため、効果的な対策がなされないままとなっている。このような状況下、「ジェリコ地域開発計画調査」で策定したジェリコ地域の農業開発、農産加工・流通プログラムに基づき、2006年11月に実施したプロジェクト形成調査において研究と普及の連携により効果的な農業普及システムを構築するプロジェクトの実施が提唱され、パレスチナ自治政府から要請がなされた。

### プロジェクト概要

当プロジェクトの目的は、プロジェクト目標である“研究と普及が連携する事により効果的な農業普及のための体制基盤が整備されること”を達成し、ひいては上位目標である“「平和と繁栄の回廊」構想が実現に向けて小規模農家の農業生産が向上すること”に寄与する事にある。本プロジェクトの対象地域は、ジェリコ及びヨルダン渓谷地域を範囲とし、ジェリコ県、トゥバス県及び、ナブロス県の一部が含まれる。プロジェクト目標から導かれる、農業庁普及・地域開発局、農業庁ジェリコ、トゥバス、ナブロス支局とその分室の普及員、及びNARC本部及びジェリコ支局の研究者がターゲットグループとなる。ただし、「農業研究・普及は常に農民の生活向上を念頭に置き、成果は農民に裨益する」との考えに立脚し、デモファーマー、キーファーマー及びデモファーム周辺の農民もターゲットグループに含めている。

### 担当事項

- 対象地区における循環型農業（コンポスト生産・サイレージ製造）の適正技術の確立。
- 対象地区における農村開発活動（生活改善）のための乳製品製造技術の導入・紹介
- 研究と普及の連携体制の構築、デモファーム・試験圃場の運営指導

